

はじめに

留学の目的として、英語力向上や多文化との交流だけでなく、日本とは違うアメリカの授業形態に興味があったため、アメリカで9か月(8月中旬から翌5月中旬)滞在して現地の大学に通うことのできる本プログラムに参加しました。UIUC (University of Illinois at Urbana-Champaign) への交換留学生は学部1年生として入学するので大学院生用の授業は登録できませんが、自分の専攻以外の授業を自由に受けることができます。しかし私の英語力の低さから、そのままでは大学の授業や日常生活で困ると判断し、秋学期が始まる前にUIUCのすぐ傍にあるIEI(Intensive English Institute)で2か月間英語を学ぶことにしました。

本報告書ではIEIおよびUIUCについて、これまでの活動や授業内容を報告いたします。

IEI (Intensive English Institute)

IEIには様々な国から英語力向上を目的に留学生がきています。私がいた夏期間(6月初旬から8月初旬)では、日本、中国、韓国、タイのほか、サウジアラビアやアフガニスタンの方が多かったです。また、学生の英語力もまちまちで、私のように英語が苦手な人からネイティブレベルの方までいるので、とても良い刺激になりました。面白いと感じたことは、出身地によって得意とする英語スキルが異なる点です。日本では読み書きに重点を置いているので話すのは不得手という人が多いと思いますが、中東などの人は話すほうが得意のように感じられました。こういった教育的価値観の違いを知ることができるのも英語学校の魅力です。

IEIでの授業は週4日あり、各々のレベルによって充てられる授業の内容やコマ数は変わります。今年は学生数が少ないためか、Basic, Intermediate, Advancedの3クラスへの振り分けでした。私はReading, Grammar, Speaking & Listening, Pronunciation, Everyday Conversationの授業を受けましたが、いずれの授業でも発音が一番の障害となり、思った通りに伝わらず、もどかしい思いをしました。IEIには授業を受け持つ先生だけでなく、インターンとして授業や課外活動の補助を行うUIUCの学生も数人おり、英語学習やアメリカでの生活をサポートしてくれます。IEIの催しとして、彼らとゲームをしたりシカゴへ旅行にいたりできるので、ネイティブと会話する機会はとても充実していました。

渡米直後は挨拶するだけでも緊張していましたが、IEIを修了するころにはだいぶ会話そのものへの抵抗が薄れてきたように感じます。英語力は大きく向上していませんが、英語に対する恐怖心が無くなったことは自分にとって大きな成長だと思っています。



図1 IEI orientation



図2 IEI Chicago trip

UIUC (University of Illinois at Urbana-Champaign)

秋学期に履修中の授業は以下の5つです。

ESL110 English Pronunciation for Academic Purposes

CMN101 Public Speaking

ASTR100 Introduction to Astronomy

PHYS140 How Things Work

MSE280 Engineering Materials

ESL110 English Pronunciation for Academic Purposes

英語を母国語としない人のための発音の授業です。ただし、英語が母国語でないとはいえ、他の学生は正規の学部生や大学院生なので、会話に関しては非常に流暢です。内容はIEIの発音の授業と似ています。発音は会話において文法以上に重要ですが、独学で発音を修得することは困難であるため、この授業をとりました。基本的には教科書をもとに、母音、子音、会話におけるストレス、リズムなどを学び、2週に1回程度、あるテーマについて各自5分程度の発表を授業内に行います。その際、授業で学んだことに注意しながら発表しなければなりません。私は発表前に原稿を作成して練習してから臨んでいますが、本番では緊張で発音やストレスを意識して話せていないのが現状です。特に日本語にはない母音や、Rの発音で先生に注意されています。ただ、どの国にも苦手な発音はあるようなので、あまり気にやまないようにしています。今は改善すべき点が山のようにありますが、一つ一つ克服していけるよう努力していきます。

CMN101 Public Speaking

プレゼンの授業です。発表の際に気を付けるべき仕草、目線、声量、タメ、構成などを、実践しながら学びます。話す機会を少しでも増やすために受講しました。授業は学生同士もしくは先生とのディスカッションがメインで、加えて1~2分程度の即席の発表や、2週に1回程度の5分の発表があります。グループディスカッションでは、過去の優秀な発表者のビデオを見て、良い点を各々話し合うのですが、自分の意見を述べるのは難しいです。しかし他の学生が私にも話す機会を作ってくれるので、なんとか討論に入れています。一方、教室の前で発表する時には、声量や構成はよくても言葉に詰まってポーズが長くなりがちなので、スムーズに言葉が出てくることを目標としています。

ASTR100 Introduction to Astronomy

天文学について広く学べる授業です。私は宇宙関連のことが好きなので、すぐに登録しました。この授業では計算問題などを解くのではなく、日食・月食、月の満ち欠け、ケプラーの法則といった基礎的な天文学の用語を扱うため、天文に関する専門的知識が乏しくても授業の内容はだいたい理解できています。特に、授業スライドは写真やCGを多用しているのでわかりやすいです。日本のスーパーカミオカンデを取り上げてくれたときもあり、とても楽しい授業です。ただし、専門用語を英語にすると非常に難しくなるため、試験前には天文学の用語を覚えておく必要があります。実際、赤緯(Declination)、黄道(Ecliptic)、十三夜(Waxing gibbous)、十八夜(Waning gibbous)などは全くわからなかったです。授業自体は講義形式ですが、レポート作成にあたり星空観察や天文台でのラボが必須になるため、授業外の活動が何度か行われます。9月は大学内の天文台で土星を観察し、その屋外の望遠鏡でアルタイルやベガを観察しました。この授業に関しては、勉強の息抜きという位置づけになっています。

PHYS140 How Things Work

物理学の授業ですが、数式を使った計算はほとんどありません。世の中の現象について学生が感覚的に理解できるよう、実験を交えながら授業が行われます。作用反作用や慣性モーメント、斜方投射など、高校物理の内容から始まっていますが、実験が大掛かりなので飽きない内容となっています。実験には学生も数名参加するほか、授業中に何度かクイズが行われたり、学生に質問が投げかけられたりと、学生が授業に意欲的に参加できるようになっています。内容が基礎的であることと専門用語が比較的わかりやすいため、理解することは難しくありません。しかし、週1回あるラボでは他の学生と全くディスカッションできていないので、学期が終わるまでに少しでも発言できるようにしたいです。

MSE280 Engineering Materials

炭素鋼やプラスチックなどの材料特性、ミラー指数、sp混成軌道など、機械材料の授業です。基本的には機械工学の範囲で学ぶものですが、扱う範囲が広いので、200番台ですがしばしば新しく勉強しなければならないこともあります。例えば高分子の重量平均分子量や数平均分子量の算出などは残念ながら記憶になかったです。授業の進度は非常に速く、1週間で内容が変わります。そのたびにレポートが課されるのですが、その問題自体が難しく、的外れな解答を書いてしまうこともありました。この授業は予習復習が不可欠なので、英語学習との両立が図れるよう努力していきます。

おわりに

アメリカ生活が4か月たちましたが、まだまだ日常会話もままならないことに焦りを感じています。英語学習だけでなく、大学の授業やクラブ活動にも全力で取り組み、悔いのない留学にしたいと思います。また、10月末には国際学会発表がひかえていますので、それまでに少しでも英語力を向上できるよう、日々自己研鑽に励みます。

9月分の報告は以上です。